

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391500115		
法人名	NPO法人健寿会		
事業所名	グループホーム明香里		
所在地	熊本県天草市二浦町亀浦1066番地6		
自己評価作成日	平成29年 1月 5日	評価結果市町村受理日	平成29年2月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41—5		
訪問調査日	平成29年1月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季が感じられる大自然の中で、季節を感じながらゆっくり過ごして頂いています。ホーム全体を落ち着ける佇まいとし、皆さんと一緒に過ごされる居間も、くつろげる空間を作り、ご利用者はそれぞれの役割を持ち活気ある生活を楽しまれています。
また、開設当初より「地域に必要とされるグループホームをめざして」地域交流に力を入れてきました。運営推進会議を通して地域との繋がりができ、地域に支えられ、地域の理解と協力の下、様々な地域行事への参加ができ、毎日、豊かな生活を送っています。地域住民の一員として、「認知症になっても安心して暮らせる地域づくり」を、地域住民を巻き込み、認知症サポーター養成講座や、徘徊模擬訓練など、積極的に様々な活動を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、地域連携・運営推進会議の充実・看取りケア等に熱心に取り組んでおり、地域福祉の中心的存在となっている。運営推進会議は、地域の多様な人材で構成され、ホームの活動報告のみならず、待機者の入所判定もオープンにする中で、グループホーム本来の目的や役割についても話し合い、地域の特性を大切にした協力体制が図られている。消防団は日頃より協力的で、訓練の実践を通してホームへの理解をさらに深め、又、ホーム職員が地域行事の準備を手伝ったり老人会の草取りに参加するなど、地域との信頼関係も築かれて連携強化に繋がっている。看取りケアについても、本年度の全国大会でその取り組みを事例発表した事が評価されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念に基づき実践を行っている。管理者、職員はご利用者、地域との関わりの中で、戸惑った時、どうあるべきかを振り返り考える為の原点として、理念に立ち返り、常に前進できるよう努めている。前回の評価では、法人内の異動で認識に差が感じられていたが、職員の異動もなく、朝のミーティングで、ご利用者の支援について、理念の下考え、今では、理念を身近なものと感じている。	職員は利用者・家族・地域等、全ての人達に感謝の念を持って日々の業務に取り込んでいる。年間研修計画の中にも「理念から考える明香里の支援」として組み込み、理念を職員の行動規範として意識付けがなされている。職員が、3つの理念を、利用者と共に一針一針縫い込んだタペストリーとして仕上げ、社協主催の「シルバー作品展」に出品した事で、ホームの理念が地域住民へも周知されることとなり、理念がさらに身近なものとして日々のケアに活かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設当初からの地域との関わりを大切に、様々な行事等の開催、参加継続を図っている。中でも、定期的な「喫茶・明香里」は、地域のボランティアの方々の力を借り、地域の方々の楽しみとなっている。他にも、交流を通じて、ご利用者、職員が地域との繋がりを大切にしながら、小組合いの旅行や老人会の旅行に参加し、地域の中で毎日、楽しく生活を送っている。	地域の一員として小組合に加入し、回覧板で地域の行事やイベントの情報を得ており、小組合の旅行にも参加している。地域の老人会・婦人会・子供会・消防団等との交流も積極的に行われている。運営推進会議も地域の多様な人材が委員として参加し、地域ぐるみでホームが支えられている事が伺えた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用者は定期的に、地域の子供会や老人会と交流(クリスマス会など)を図り認知症の方と一緒に過ごす時間を持ってもらったり、地域(一般・消防団など)での認知症サポーター養成講座を行うなど、認知症の人への理解や、支援方法を一緒に考え、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりを住民を巻き込んで行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月毎の定期開催の中で、ご利用者の状態や生活状況、地域交流状況をパワーポイントを活用しながら報告を行っている。地域の独居者や防災・避難訓練・地域行事についての意見を引き出し、出た意見をご利用者の生活の質の向上と、地域住民のために、活かせる努力をしている。	運営推進会議は、老人会長・消防団長・民生委員・婦人会長・協力病院・小学校・家族代表・地域包括等、多様な委員で構成されている。今年度から、デイサービス等関連事業との合同会議を実施しており、横の連携が強化された事で、利用者を総合的に支えるメリットがあるものと思われる。待機者の入所判定会もオープンにされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員として包括から参加して頂いている。また、会議録を含めた資料を会議終了後に市に提出したり、月1回の「明香里だより」をご利用者と職員が包括に出向いて手渡すなどして交流も深めている。他にも事業所主催で行う徘徊模擬訓練への参加案内を行い、協力を得ている。	市の「地域支援係」と「介護保険給付係」とは、運営推進会議録や資料を届ける事で密に連絡を取り合い、協力関係を築く努力をしている。利用者と共に、毎月「包括」に届けている「明香里だより」は包括で閲覧できるように配慮され、他事業所からも関心が寄せられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内での身体拘束についての研修会、外部研修参加を行っている。日頃の支援の中で、身体拘束になっていないか、常に考えながら、職員一人一人が理解した上で支援を行うようにしている。職員の認識に差が出ないように、ミーティングなど様々な状況に応じて話し合いを行うようにしている。	法人内研修の場で、担当職員が「身体拘束」について、日常ケアの取り組みの中での気づきや、ネットで調べた具体的事例等を基に、意見交換をしている。お互いの気づきを話す事で身体拘束の弊害を認識し、実践の場で活かされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	法人内の研修会、外部研修において虐待防止関連法について勉強し、日ごろの支援の中で「これ、虐待にならない？」と声をかけ合いながら、また、状況に応じて話し合い、考え、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内研修で、ひと通りの研修は行っているが、職員一人一人に認識の差があり、今後も研修が必要である。現在まで、支援に至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用前に、ご本人やご家族の気持ちをお聞きした後、記録に残している。また、契約については十分に説明を行い、納得をされてから契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	病院受診の報告や稲穂会(家族会)や面会時に意見を聞き取るようにしている。また、運営推進会議にも、ご家族の代表に参加していただき、外部者との意見交換ができるように配慮をし、加算変更等に関しても、稲穂会の議題としてご家族に相談し、検討後、決定するよう機会を設けたり、月1回、ご家族への便りで日々の状況を伝え、意見を聞ける状況にしている。	家族会や面会時、利用者の状況を報告しながら、意見や要望を引き出す努力をしている。月に一度、請求書送付時に、「明香里だより」とあわせて、利用者の日常の様子などを記した職員からの手紙も添えており、家族の安心に繋げている。又、家族会では、パワーポイントを使い、亡くなられた利用者の暮らしぶりを見てもらう事で、「看取り」についての家族への意識付けもなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、主任会議に理事長、管理者が参加し、会議開催を行っている。また、管理者は毎日のミーティング、月に1回の部署会議、部署研修に参加し、職員からの意見を理事長に伝え反映できるように努めている。	毎日のミーティングでは夜勤の申し送り・その日の日程・体操やレクリエーション等の活動内容確認・拘束の有無等が報告されたあと、各自「今日のひとこと」を発表して一日の業務がスタートしている。職員が確実に情報を共有し、意欲を持って、利用者の安心安全な暮らしに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談、ボーナス時の自己評価表、資格手当の昇給など、やりがいのある職場づくりに努めている。また、管理者は、スタッフの要求を聞く機会を設け、出た意見を理事長に伝え、働きやすい環境整備をできる事から行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の法人内の研修会での研修発表や、運営推進会議、全国大会での発表を担当制で行っている。ホーム外での研修は、すべて研修案内を回覧し、研修を受ける機会を多くしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の集まり(忘年会・研修会など)へ参加する機会を設け、サービスの質が向上するよう取り組みを行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている。入所前にご本人にお会いし、コミュニケーションを図り、本人の不安の解消や、今後の生活に対する意向の確認を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている。上記同様に入居前面接等により、ご家族のご本に対する思いや、当事業所に対する要望をお尋ねし、それに添うような生活支援ができるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。入居前面接・面談等を密に行い、広い視点からの対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「暮らしを共にする」という視点と「生活の主体者のご利用者」という視点を持ち、関係づくりを行っているが、職員一人一人の認識に差が見られる為、職員間での話しができる環境が必要である。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	努めている。ご家族の意向を伺ったり、ご自宅と一緒に何う等しながら、ご家族との絆を大切にされた支援を行っている。また、面会時や定期受診後の連絡時には、日頃の生活の様子や状況をお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めている。ご自宅へお連れし、仏壇、墓参りをして頂いたり、近隣の方を含めた地域の方々や、ご兄弟、親戚の方々に会って頂く機会を作っている。また、行きつけの病院や美容室にお連れしたりしな、がら馴染みの関係が途切れないように支援を行っている。	日常的な散歩で出会う近隣の方や、畑仕事をしている方達に、積極的に声かけして馴染みの関係作りに努めている。又、家族に宛てた絵葉書を書いてもらい、職員が付き添って本人が投函できるような配慮も見られた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めている。居間を中心にご利用者同士が集える場所を多く作り、関わりが持てるように配慮を行っている。また、洗濯物たみや調理活動など出来ることをしていただき、其々の生活を大切にしていこうと生き生きと生活を送って頂ける支援に繋げている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めている。入院されても頻回にお見舞いに行ったりしながら、支援を行っている。また、お亡くなりになってからも、地域交流でお世話になったり、年忌にご家族が訪ねて来て下さったりと、ご家族との関係の継続を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理念のひとつ「あなたの思いにとことん考えとことん付き合う」の下、お一人お一人の思い、また、その瞬間の思いを大切に考え、それを把握する機会を日常の中でも多く持ち、ご利用者の「思い(想い)」を常に考えながら、本人本位となるよう支援を行っている。	リビングでくつろいでいる時間、「飲み物メニュー」を示して好みの飲み物を選択して貰っている。又、「天気がいい日は外で食事がしたい」「買い物に行きたい」等、暮らしの中でのつぶやきにはできるだけ対応し、その思いを大切にしよう心掛けている。意思表示ができていない人は表情で判断し、本人の意向に沿った支援ができるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居後、生活歴等ご家族や地域の方々とお会いできる機会には、生活歴等の把握に努め、これまでの生活をそのまま継続できるように配慮をしている。入居前に利用されていたサービス事業所とも連携をとり、スムーズに生活が移行できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めているが、身体機能低下が進むご利用者に対する支援において過介護になり過ぎず、有する力を見極めていけるよう、これからも、状態変化毎の話し合いの場を設けていきたいと考えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画書作成前に、ご本人、ご家族に希望や意見を尋ね、現場職員と共にアセスメント、モニタリングを行い、日頃の生活の中での表情の変化や役割を暮らしに反映できるように努めている。	「認知症勉強会予定表」に従って、毎月実施している施設内研修とともに、評価対象者を挙げて、定期的及び必要に応じてモニタリングを行っている。入居者への気付きや実践の記録・家族の意向等を基に6か月に一度、介護計画の見直しを行い、個別ケアの充実を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践についての記録は、なされているが、結果、気づきについての記録は、職員に差があり、介護計画の見直しに十分に活用できない時があるため、きちんと記録ができ、反映できるようになることが課題である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに応えられるよう日々、頑張っているが、其々のADL等によって偏りが見られる。また、併設の通所事業所と連携を取りながら、サービスの多様化に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎日、地域の中を散歩したり、地域行事(運動会や秋祭り等)参加している。また、事業所主催での地域交流に必要な準備の手伝いや、地域の宮掃除に出掛けたりと、出来る範囲での地域貢献を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からの主治医を尊重し、入居後も継続して受診支援を行っている。また、受診の前後には、ご家族に連絡を取り、受診後は結果等の報告を欠かさず行っている。	全利用者が入居前からのかかりつけ医を継続しており、定期受診は職員が付き添い、受診後家族に報告している。体調に変化があった場合は、本人の現状を知ってもらう為、家族と病院で待ち合わせて医師と話し合う等、かかりつけ医との信頼関係も築かれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の体調管理に努め、体調変化、異常があった場合は、主治医へ連絡、指示を仰ぎながら適切な受診や看護を受けられるよう支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、介護サマリー等による情報の提供、入院中は頻回に見舞い、主治医や看護師から状態を伺ったりしている。退院後は医療関係者からの情報収集を行いながら連携を図っている。 また、日頃より、定期受診時に医療関係者とは、生活状況や気になる点等を報告、相談をするようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族会、運営推進会議でも看取りについての説明など行っている。特に家族会では、看取りを行った後、パワーポイントで看取り状況を見て頂きながら、明香里でできる看取りについての説明をしている。早い段階（お元気な時）からご本人、ご家族への最期を迎える時の希望をお聞きしたり、面会時ご家族と再度話をしたりと、年々、看取りについて、ご家族と話をさせて頂く機会は、多くなってきている。また、今年度の全国大会では、「最期の選択」をどう支援し、支えていけるかを看取り経験の中から事例発表を行った。	開設当初から看取りを行う方針で、看取りを特別な事として捉えるのではなく、ホームの暮らしの延長線上に、必ず訪れる最後のケアとしての覚悟がある様に感じられた。そのため、早い段階で家族の理解が得られるよう働きかけている。職員に対しては、看取り前後にアンケートやミーティングで振り返りをする事で、看取りに関する意識に変化が見られるようになった。49日法要や初盆のお参りも欠かさず、家族から弔辞を依頼される程の信頼関係が出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修等を行ったり、個々の状態変化時の対応を定期的な話、急変の可能性の意識付けを常に行い、急変時に対する不安が、少しでも軽減するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間の避難訓練では、地域住民(近隣、消防団)との避難訓練を行っている。また、消防団との合同訓練では、火災時の消火栓連結訓練や、津波を想定しての避難訓練を実施したり、地域の自主防災訓練への参加も積極的に行っている。	火災による避難訓練の他に、消防団の協力を得て昨年末、津波を想定した避難訓練を行い、近くの学校に全員避難する事が出来た。その後、職員を対象に消火栓の連結訓練もを行い、防災意識を高めている。更に、訓練後、消防団の方々に「認知症サポーター養成講座」を開催し、認知症への理解を得ている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者に分かりやすい言葉や、親近感溢れる方言を交えながら、丁寧な言葉掛けに努めている。また、上から目線で言わない、不在と分かっているにもかかわらず入室する。意思の疎通が困難になられた方でも、同性での入浴支援の継続を行うなど、プライバシーの確保を行っている。	9人の利用者の現状を十分把握した上で、その人の自己決定を最優先し、本人に合った支援を心掛けている。言葉かけについても、職員同志お互いに注意し合える信頼関係が伺われた。言葉での意思表示が出来ない人に対しても、出来る人と同様に接することで、プライバシーの確保に繋げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様々な活動への参加、入浴希望の決定、外出や散歩、お茶の時間の飲み物の希望など、生活の中で、自己決定をしていただく機会を多くできるように其々のご利用者との関わりを大切に支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の起床から就寝、一日の生活の中で其々のペースを考慮しながら、毎日の生活リズムが作れるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後の洗面・整髪(ご自身の使い慣れた鏡台で行うなど)の支援も無理なくできている。普段着と外出着の違いをハッキリさせ、気分を変えて頂けるよう配慮を行っている。(着用時の衣類も希望を尊重するようにしている。)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立はあるが、地域からの頂きもの(旬の食材など)があると、直ぐにみんなで下ごしらえをし、好みの食べ方(天婦羅や煮しめなど)に調理し、みんなで食卓を囲み楽しく食事ができるような取り組みを行っている。食事の後片付けも、手分けしながら行っている事が、ご利用者の生きがいに繋がっているのではと感じている。	オープンキッチンがあるリビングで、テーブル席とコタツ席に分かれ、職員は利用者の食の進み具合や、食べこぼしに気配りしながら同じ食事を摂っており、家庭的な和気あいあいとした雰囲気での食事風景が見られた。なお、毎月一日は、小豆御飯を提供したり、利用者の声から始まった「七夕料理」という行事食を継続するなど、利用者とともに楽しむ食事支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量(個人に合わせた量)に努め、記録に残している。栄養のバランスを考えた献立を作っている。また、季節の古き行事(毎月1日の小豆ご飯や七夕料理など)に合わせた献立も考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の誘導を行い、必要に応じた支援、見守りにより、口腔ケアの支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人お一人の排泄パターンでの誘導を行っている。入所前は、紙パンツ使用の方が、入所後は、布パンツ使用となられ現在、平均介護度4.1であるが、外出時以外、紙パンツ使用のご利用者は、0である。その成果により、皮膚の状態も良くなり、皮膚科受診も減る等、ご家族の経費軽減にも繋がっている。	入居者全員の排泄パターンを把握し、定期的なトイレ誘導で排泄支援はスムーズに行われている。夜間は、歩行状態や視力低下等も考慮して尿取パットで対応し、紙おむつは使用していない。介護レベルの低下等を見極め、排泄パターンの見直しを行うなど、失敗を防ぐ努力が見られた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく薬に頼らず、食事や水分量の調節などで便秘予防に努めている。また、毎食前の冷水や牛乳の飲用、腹部マッサージや毎朝の体操等で自然排便に繋げている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者の希望の時間に合わせて、夜間入浴支援を行っている。(ご自宅での入浴時間に合わせ、夕食を挟んで前後での入浴時間を取り入れている。今では、夜間入浴が定着し、ご利用者も自宅で過ごしているような気分で入浴を楽しんで下さっている。	入浴日や入浴時間は決められておらず、本人のこれまでの生活習慣に合わせた、夜間入浴を導入して落ちついた安眠に繋げ、職員の負担も軽減されている。職員の勤務時間のやりくり等で、利用者本位の入浴支援が出来ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者のご希望のスタイル(これまでの生活習慣等を考慮)に合わせ、自由に休憩して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の服薬支援については、名前・日付・何食分の薬かをご本人に伝え、確認後、必要に応じた支援を行い、服用して頂いている。個々の薬の目的や副作用についての理解は、職員により差があるため、都度、説明を行い理解できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族からの情報等により、知った生活歴や、これまでの趣味を活かし、職員と一緒に活動を行い、生活の中での役割としている。また、共に生活する中での気づきを新たな役割に繋げている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望に応じて、お墓参りや散歩、買い物など、日々、楽しんで頂けるよう支援を行っている。 毎年の地域の小組合の日帰り旅行にも、希望者で参加を行い、地域の方々が協力をして下さっている。	日常的な散歩の他に、つわ取り・桜やあじさいの花見・下田温泉の足湯等、外出の機会を多く設けている。又、小組合の旅行にも希望者を募って参加しており、小組合の方々からも歓迎されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の希望により、受診代や日用品代を預かり管理している方と、ご本人の力に応じてお小遣い程度のお金の管理をされている方に分かれています。希望があると近所の店に買い物にお連れし、支払いまで自身で行って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話時、ご本人と話をさせて頂いたり、荷物が届いた後、電話をかけ話して頂く等の支援を行っている。また、趣味を活かした活動の一つとして、遠方の子供さん達への絵ハガキ作りを行い、ポストまで出しに行く等の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	散歩に出掛け取ってきた季節の草花をご利用者自らが飾ったり、台所で調理をし、生活の中においを感じたり、生活感や季節感が感じられる空間作りに心掛けている。ソファやこたつを設え、好みの場所で心地よく過ごして頂けるよう支援を行っている。	玄関・廊下・リビング等には、その場に合った置き物や額入りの絵・利用者の作品等が掲示され、ホームの活動的な暮らしが伺える。リビングは陽当たりが良く、窓から広々とした田園風景を見ることができ、開放的である。テーブル席やコタツ・ソファ等、利用者は自分の好みの場所でくつろいでおり、アットホームな居心地の良さが感じられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの居室、リビングのソファやこたつ、廊下、テラスにはベンチや椅子などを置き、その時の気分で、好みの場所でくつろげるような空間作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時は、使い慣れた品をお持ち下さるようお願いし、自宅と同じような居室作りを行うことで、住み慣れた空間で、心地良く過ごして頂ける工夫をしている。	ホームには4つの和室があり、入り口に手作りのれんが掛けられた部屋や、押入れがきちんと整理されてスッキリした部屋などがみられ、家族の協力が伺えた。また、フローリングの部屋には、夫の思い出の鏡台や、家庭にあったテレビ台がベッド脇のサイドテーブルとして活用されている部屋があるなど、家族の思いが感じられる居室作りが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員と一緒に調理や洗濯、掃除などの日常生活が安全に送れるよう環境作りを行っている。		